

日本のメンタルヘルスの研究動向—各年代における労働政策との関連—

李 慧瑛

鹿児島大学医学部保健学科基幹看護学講座

(2019年10月18日受付)

要旨：本研究の目的は、日本におけるメンタルヘルスの研究動向を探ることである。テキストマイニングの手法を用いて、各年代の特徴語を抽出し、労働政策との関連を考究した。

医学中央雑誌 Web 版に掲載されている 1982 年から 2019 年 2 月末までの文献を、“メンタルヘルス”と“ストレス”をキーワードとして検索した。そして表題に使用された語句の傾向、年代別の推移と特徴語について、テキストマイニングの手法で分析した。

総数 6,819 件の文献が検索された。メンタルヘルス関連の文献数は経年的に増えており、特に 2000 年前後を境として急増していた。年代別の特徴語を見ると、1980 年代における上位の特徴語には「職場」「健康学」「心」「医療環境」、1990 年代は「精神保健」「予防医学的研究」「阪神淡路大震災」「メンタルヘルスケア」、2000 年代は「看護師」「心」「職場」「ストレス対策」、2010 年代は「ストレスチェック制度」「東日本大震災」「メンタルヘルス対策」が出現した。なお、2010 年代の中位には「レジリエンス」「メンタルヘルス支援」「義務化」が出現していた。

メンタルヘルス対策は、1980 年代の課題の分析に始まり、実践するための方策策定・実施の時代を経て、近年は具体的な支援方法に関する研究へと移行している。研究動向は労働政策の影響を受けており、2000 年代に入ってから多様化する労働形態への対応や企業がメンタルヘルスを危機管理として認識する過程が研究内容にも反映されている。

(日職災医誌, 68: 348—355, 2020)

—キーワード—

メンタルヘルス, 労働政策, テキストマイニング

緒 言

我が国における労働者のメンタルヘルス対策は、1988 年の「事業場における労働者の健康保持増進のための指針」に始まり、2006 年の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」の策定、「労働安全衛生法改正—ストレスチェック制度の導入」と戦略が改定され、実施されてきた¹⁾。しかし現在も労働者の 58.3% が職業生活に強いストレスを抱えているとの報告があり、精神障害等に係る労災請求・認定件数も増加している²⁾³⁾。

メンタルヘルスの対策や概念は時代背景を受けていると推測されるが、研究動向について網羅的に調査した研究は見当たらない。メンタルヘルスの進展のためには、それを支える研究が必須であり戦略的方策の設定が必要である。これからの研究の方向性を提示するためには、これまでに蓄積されてきたメンタルヘルス研究の主題を明確にし、把握することが必須だと考える。

既存の文献検索では、時間、労力、正確性などの点か

ら現実的に限界があるが、テキストマイニングは、人手では処理できない量の文字や数値データを一目瞭然の図表に変換することで、それまで隠れていたものを可視化することができる⁴⁾⁵⁾。テキストマイニングとは、膨大なテキスト（文書）情報の中から有用な情報を掘り出すことで、定型化されていないテキストデータを一定のルールに従って定型化して整理し、データマイニングの手法を用いながら、相関関係などの定量分析を行う手法である⁴⁾。文章の中に埋もれている共通性や相関関係を発掘し、有用な知見を獲得する分析手法といえる。また、構造化/非構造化を問わず多様なデータに適用可能であり、他の方法では知りえない傾向や誰も気付かなかった知識を発見することができる。そのことから、ビッグデータからマイクロなテーマを分析するのに有用であり、最近では、様々な分野で活用されている⁶⁾。

医中誌 Web は、医学中央雑誌刊行会が提供する文献検索データベースであり、国内発行の医学関連分野の定期刊行物延べ約 7,500 誌から収録した約 1,350 万件の文

献情報を収録している⁷⁾。そして「医中誌 Web」は、全国の医学・歯学・看護学系大学のほぼ100%で導入されているサービスである。また医中誌 Web の特徴として、「医学用語シソーラス」に基づいて付与するキーワードによる検索が可能であり、的確な検索結果を得ることができる⁸⁾。そのことから、国内のメンタルヘルス研究について概観するには適したデータベースであると考え、調査対象とした。

そこで本研究では、鍵となる言葉として「メンタルヘルス」と「ストレス」を取り上げ、日本におけるメンタルヘルスの研究動向を探る。テキストマイニングの手法を用いて、質的・量的に分析した後、各年代の特徴語を抽出し、労働政策がどのように研究動向の変化に影響を与えるかを考究した。

方 法

1. 対象

医学中央雑誌 Web 版(以下、医中誌 Web)に掲載されている全ての文献を対象にするため、検索対象年は1959年から2018年と設定した。医中誌 Web は毎月1日と16日に更新されることから⁷⁾、2018年2月28日の掲載分までを対象データとした。検索キーワードは、メンタルヘルス(精神保健/TH or メンタルヘルス/AL)、ストレス(ストレス/TH or ストレス/AL)とした。「メンタルヘルス」をキーワードに検索すると、シソーラス用語である「精神保健」に統制され、検索結果が示される。シソーラス用語とは、医学中央雑誌刊行会が作成している、医学・歯学・薬学・看護学・獣医学・公衆衛生学等の分野で使われている用語を体系的に関連付けたキーワードを指す⁹⁾。シソーラス用語「精神保健」に含まれる統制語は、メンタルヘルス、精神衛生、MH(Mental Health)、Mental Health, Mental Hygiene, こころの健康、メンタル・ヘルス、心の健康、精神衛生学、精神健康、精神的健康、保健—精神の12語である。また、「ストレス」のシソーラス用語は、Stress, 侵襲, Stresses の3語であった。それぞれのキーワードで検索し、履歴からAND検索を実行した。その際の検索式は次のように設定した。(検索式 = ((精神保健/TH or メンタルヘルス/AL)) and ((ストレス/TH or ストレス/AL)))

医中誌において論文種類は「原著論文」「会議録」「座談会」「図説」「講義」「解説」「総説」「一般」「Q&A」「レター」「症例検討会」「コメント」の12種に区分される¹⁰⁾。一般的な理解として、論文とは一定の様式をもち、査読を経て一定の研究の質が担保されているものを指すが、本調査ではメンタルヘルスに関連する研究動向の主題を掴むため、論文種類は限定せず、検索した。医中誌に掲載されている文献の内、メンタルヘルスの用語が初めて使われたのは、1982年からであった。そのため、1982年から2019年2月末までに発表された文献を本研究の分析対

象とした。分析においては、文献内容が要約された最小単位のデータとして、文献表題(表題に含まれる語句)を分析対象として、副題も含めた。英文で書かれた文献の場合、和文表題と英文表題が併記されているため、その場合は、医中誌 Web 上に登録された和文表題を分析した。

2. 分析方法

対象となった全文献の表題に使用された語句について、テキストマイニングの手法を用い「単語頻度推移」「係り受け頻度分析」「ことばネットワーク分析」「年代別の特徴語」を分析した。解析ツールには、Text Mining Studio 6.2(NTT データ数理システム)を用いた。

テキストマイニングの手順としては、まず医中誌 Web から表題のテキストデータおよび出版年、掲載紙名など付帯する情報をダウンロードし整理した。次に、テキストデータをコンピュータで処理するために、形態素解析と構文解析で概念抽出を行い新たな定型情報を得た。形態素解析とは、文字列を文法的に意味のある単位の構成要素に分割し、各要素の文法的素性(品詞など)を決定することであり、構文解析は、要素間の文法的・意味的關係を示し、係り受け構造を見出す分析である¹¹⁾。さらに精度の高い分析のために、研究者が最初に機械が抽出した形態素を確認し、単語や語句を整理して情報バイアスがかからないように対処した。その際には、テキストマイニング分析の経験のある他の研究者にスーパーバイズを得て、原文から文脈を理解し、解釈が先入観に捉われていないか照合を行い、妥当性の確保に努めた。テキストデータの原文参照を行うことによって、テーマの特徴は名詞から把握できた。そこで、分析対象は名詞とし、そのうち固有名詞人名と数詞を除外して分析した。

分析にあたっては、まず単語頻度解析を行い、全テキストの中で頻度の高い50語を確認した。次に、単語頻度推移分析により、1982年から2019年にかけての頻出語の推移データを示した。この分析では、注目している語句がどのように変化していくのか、また変化の多いものが何かを見ていくことができる。全テキストの中で頻度の高い30語について、その時期に他に何が起きたのか、時事事項と比較して解析を行った。また単語頻度解析の結果から注目することばに対し、係り元単語フィルタにその単語を指定する事で、どのような表現でその単語が使われているかなどを把握することができる。そのようにして単語頻度解析で掴んだ意味内容が、実際何に対してそのような記述があるのかを、係り先述語属性を指定することにより列挙させ、より深い知見を得た。

係り受け頻度分析において、係り受けとはテキスト中で意味のつながりのある単語と単語の組み合わせのことで、単語単位よりも文章に近い場合、意味を把握しやすくなる。係り受けとして抽出されることにより、単語頻度よりさらにテキストの意味的な把握が可能になる。

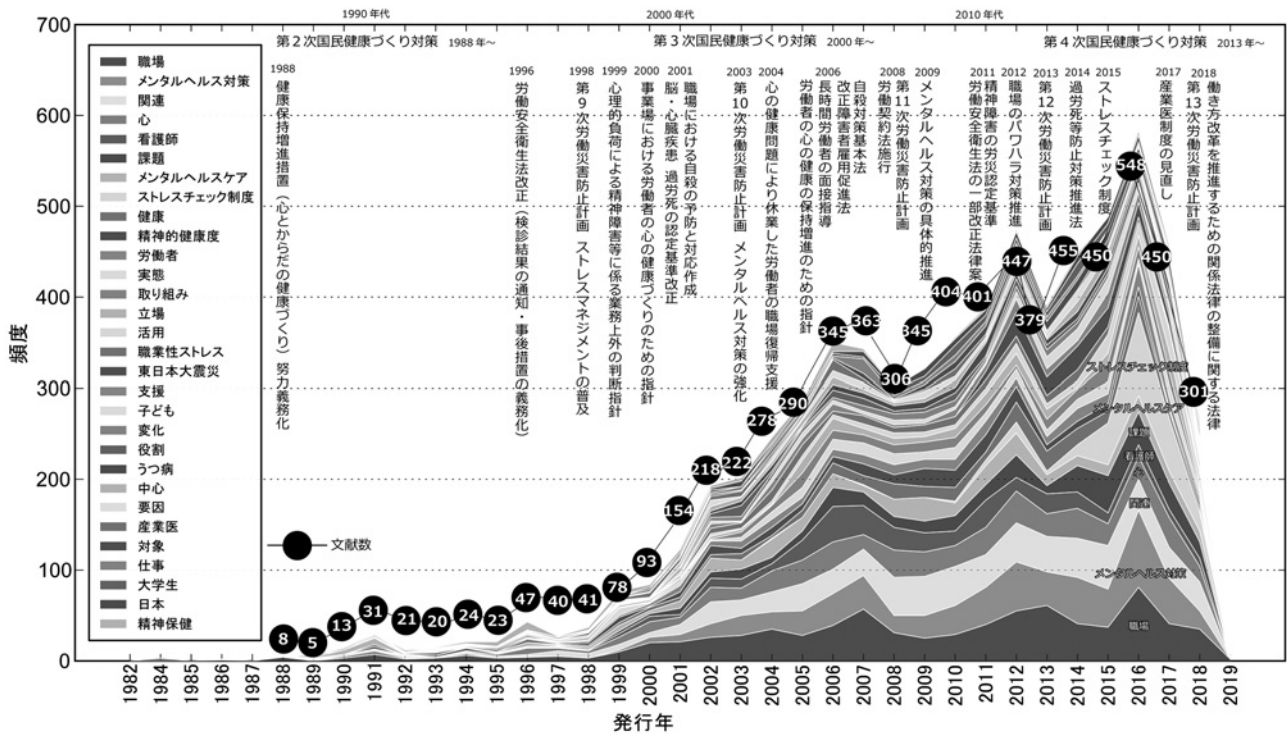


図1 文献表題の単語頻度と論文数の推移

全文献の表題に使用された語句のことはネットワーク分析とは、抽出語またはコードを用いて、語句の共起関係を線で表したネットワーク図である。布置された位置よりも、線で結ばれているかどうかということに意味がある。円の大きさが出現回数を反映し、線の太さは共起関係の強さを表している。あまりに多くの抽出語が1つのネットワーク上に存在すると判別が難しくなるため、共起回数の条件を2回以上、頻度が上位100件のものを図示した。作成されたネットワーク図から研究テーマのカテゴリー化を行う過程において、分析を質的帰納的に行うために、原文データを繰り返し読み、全体を理解した。分析の全過程を通じて、解釈が先入観に捉われていないか、内容の妥当性を欠いていないかについて、研究者およびスーパーバイザー間で確認・照合して分析の厳密性の確保に努めた。

次に分析対象を年代別に分け、各年代の上位30までの特徴語を抽出し整理した。特徴語とは、単なる頻度ではなく、分布を考慮した上でその属性に偏って出現する語句のことである。本研究では、補完類似度を指標値として用いたが、これはその属性に出現している割合が高い単語がより特徴的とみなされる値である⁴⁾。指標値が大きいほど、その属性において特徴的であると判断される。

3. 倫理的配慮

本研究の分析データは全て公開されているため、倫理審査の対象には該当しない。但し、次の点について倫理的配慮をした。対象文献に含まれる個人情報保護すること、個人情報の取り扱いは「個人情報保護法」看護者

の倫理綱領「臨床研究に関する倫理指針」の規定に従うこと、文献から図・表や本文を引用する場合は著作権等の侵害がないようにした。

結果

医中誌 Web に収録されたメンタルヘルスに関する研究は、1982年に掲載された文献が最も古く、合計6,819件の文献が検索された。対象のテキストデータを算出した結果、46,767の語句が抽出された。種別にみると、名詞41,492語(88.72%)、動詞3,234語(6.92%)、その他2,041語(4.36%)であった。名詞のうち、固有名詞人名と数詞を除外した40,860語を本研究の分析対象とした。

1. 文献表題に使用された語句

全文献表題の単語頻度推移と各年の文献数の推移と表題への使用頻度が高い単語上位30の段階的変化を階調で表わした(図1)。時事的事項と比較して解釈するため、国による労働衛生行政の流れを追記した。文献数は経年的に増えており、2000年以降は急増していた。特に2010年からは、毎年300件を超える文献が発表されていた。

次に、1982年から2019年までの頻出語上位50を示した(表1)。頻出語1位は「職場」で783回、続いて2位が「メンタルヘルス対策」で637回、3位が「関連」で633回であった。より詳細な研究テーマを探るため、係り受け関係にある語句の上位30を示した(図2)。上位には、「職場—メンタルヘルス」273回、「心—健康」100回、「職場—メンタルヘルス対策」67回、「心—ケア」65回、「看護師—メンタルヘルス」61回が抽出された。

表1 文献表題に含まれる上位50位までの語句 (n=40,860)

順位	語句	出現数	順位	語句	出現数
1	職場	783	26	中心	101
2	メンタルヘルス対策	637	27	要因	101
3	関連	633	28	産業医	99
4	心	476	29	対象	95
5	影響	383	30	仕事	93
6	看護師	337	31	大学生	92
7	課題	335	32	日本	89
8	メンタルヘルスケア	305	33	精神保健	88
9	ストレスチェック制度	257	34	比較	87
10	現状	232	35	調査	86
11	健康	227	36	ストレスマネジメント	85
12	精神的健康度	203	37	母親	85
13	労働者	198	38	視点	84
14	実態	178	39	実践	84
15	取り組み	172	40	女性	84
16	立場	164	41	動向	79
17	効果	144	42	メンタルヘルス支援	74
18	活用	141	43	企業	72
19	職業性ストレス	138	44	職域	71
20	東日本大震災	131	45	連携	71
21	支援	123	46	ストレス対策	69
22	子ども	119	47	試み	69
23	変化	108	48	心身	68
24	役割	108	49	経験	65
25	うつ病	102	50	家族	62

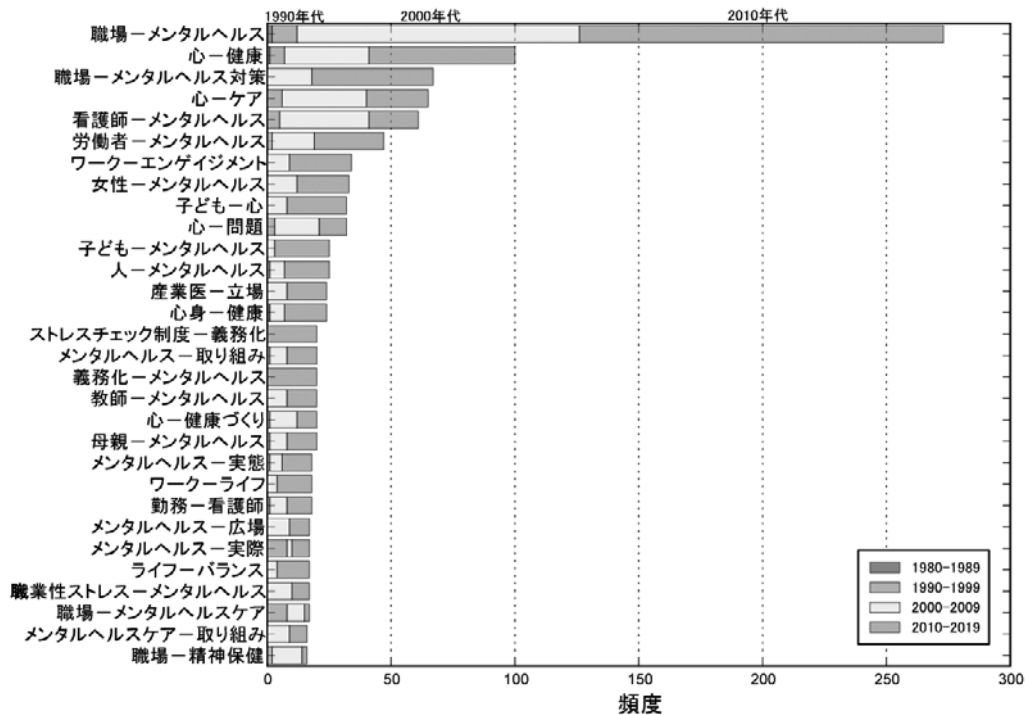


図2 文献表題に用いられた係り受け頻度分析

2. 文献表題のことばネットワーク

ことばネットワークを作成すると主な7つのクラスターが抽出されていた(図3)。ネットワーク図の上部に位置するクラスターI【職場】では、中心の「職場」に向

かって、「各種疾患」「関連機関」「ストレスチェック制度」等から矢印が集中していた。クラスターII【メンタルヘルス対策】では、「メンタルヘルス対策」に向かう「リスクアセスメント手法」「不調者対応」「職員支援システム」と

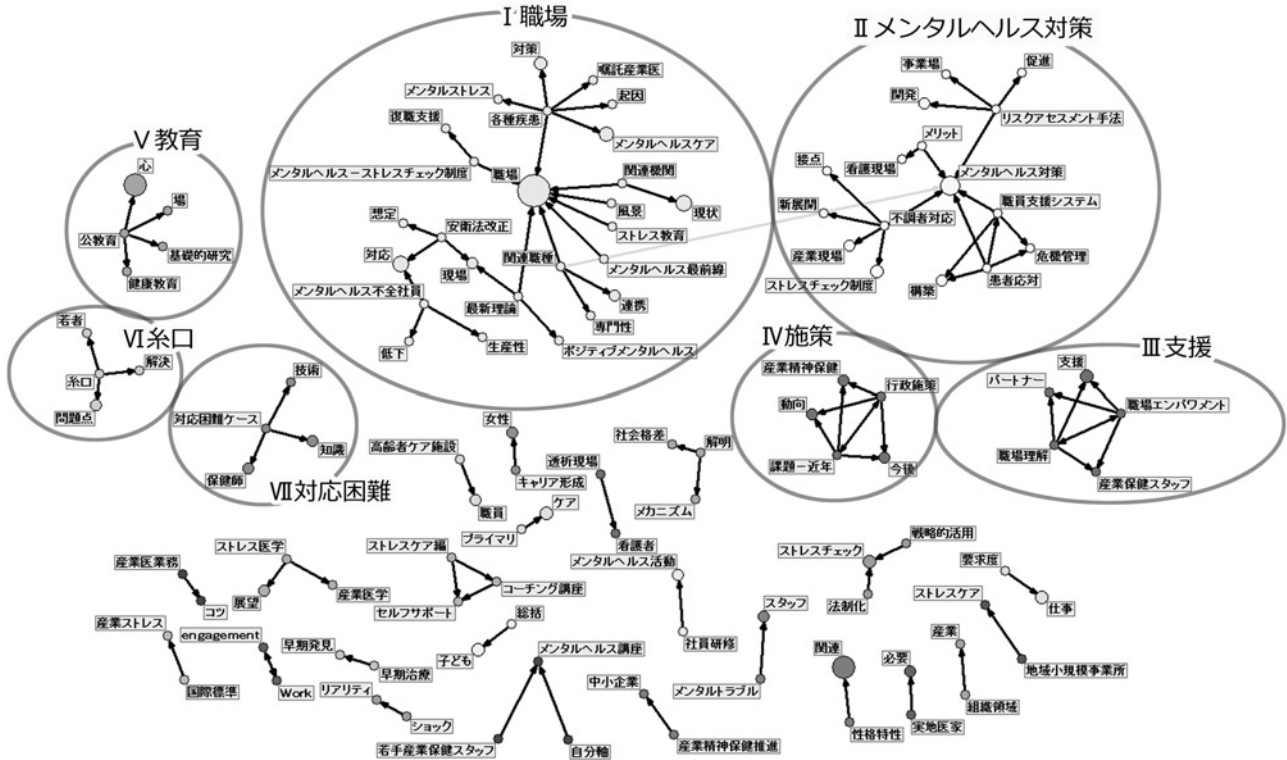


図3 ことばネットワーク分析とクラスター（単語頻度上位100）

表2 文献表題に使用された語句の年代別特徴語と補完類似度

1980年代		1990年代		2000年代		2010年代	
語句	補完類似度	語句	補完類似度	語句	補完類似度	語句	補完類似度
職場	64.03	精神保健	124.26	看護師	111.75	ストレスチェック制度	114.62
健康学	61.28	予防医学的研究	73.97	心	58.86	東日本大震災	108.81
心	58.59	阪神淡路大震災	68.20	職場	53.90	ストレスチェック	104.36
医療環境	40.75	メンタルヘルスケア	67.02	ストレス対策	35.29	メンタルヘルス対策	60.51
仕事上	40.46	職場	60.67	精神健康度	31.92	課題	51.36
抑うつ症状	39.97	ストレスマネジメント	58.13	職業性ストレス	31.06	活用	43.87
ストレス要因	39.28	ライフスタイル	41.65	関係	30.65	レジリエンス	42.44
精神健康度	31.01	メンタルストレス	41.17	メンタルヘルスケア	28.28	メンタルヘルス支援	39.08
健康	29.83	嘱託産業医	31.53	仕事	27.58	動向	36.51
検討	21.46	精神健康度	30.88	職場環境	25.24	支援者	31.03
VDT作業	20.43	PTSD	29.25	企業	22.62	支援	30.36
家族環境	20.43	ストレス対処行動	29.20	取り組み	22.04	義務化	26.88
単身赴任	20.43	ライフ	29.20	構築	20.10	着目	26.58
各職種	20.43	実際	29.14	自殺	19.92	対応	23.70
看護研究	20.43	災害	28.40	患者	19.18	効果	21.94
間接的因子	20.43	関係	28.34	改善	18.41	現場	21.27
社会ストレス要因	20.43	各種疾患	28.30	危機管理	18.37	メンタルヘルス問題	19.93
社会精神医学的研究	20.43	起因	27.66	心療内科	18.19	ワーク	18.49
情緒的支援	20.43	QOL	27.50	労災認定	17.82	認知行動療法	18.44
早産	20.43	心	27.20	教育	17.25	大学生	17.41

* 補完類似度：属性ごとに特徴的に出現する単語や語句を抽出する指標値

いった語句が見られた。クラスター III【支援】では、「支援」「職場エンパワメント」「職場理解」が抽出されていた。その左方にはクラスター IV【施策】があり、「産業精神保健」「動向」「行政施策」等の語句で形成されていた。その他には、V【教育】、VI【糸口】、VII【対応困難】が見ら

れた。さらに下方にも、関連する小さなクラスターが出現していた。

3. 文献表題に使われた年代別の特徴語

1980年代の特徴的な言葉として、「職場」「健康学」「心」「医療環境」などの語句が出現していた（表2）。1990年

代には、「精神保健」「予防医学的研究」「阪神淡路大震災」「メンタルヘルスケア」が見られた。「阪神淡路大震災」が3位に出ており、ストレス対処に関連した語句が目立った。2000年代は、上位から「看護師」「心」「職場」「ストレス対策」であった。また、「企業」「危機管理」「労災認定」の視点や「ストレス対策」「取り組む」という語句が見られた。

2010年代に入ると、「ストレスチェック制度」が上位にあり、「東日本大震災」「メンタルヘルス対策」が出ていた。中位に「レジリエンス」「メンタルヘルス支援」「義務化」等のそれまでに出ていない特色ある語句が散見された。

考 察

メンタルヘルスに関する研究は2000年以降急速に増加しており、近年では医中誌に掲載された文献だけでも年間400～500件の原著論文が発表されている。我が国においては、1980年代後半から過労死と自殺の増加が社会問題化し、過労死の労災認定の基準の改正が行われ対策が進むことになった¹²⁾。1999年に旧労働省労働基準局から心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針が発表され、精神障害の労災申請件数と認定件数がこの時期より増加している。メンタルヘルスに関する研究もこの背景を受け、2000年代から増加したものと考えられる。

社会背景と研究主題について各年代別に考究すると、1980年代は、「職場」「健康学」「心」などの語句から分かるように、社会がメンタルヘルスに対して関心が向いてきた時代である。「心」は、心の病を指しており、仕事上の強い不安や悩みが顕在化した時代である。1990年代には、「精神保健」「予防医学的研究」が見られるように、予防医学が進展する時代に入った。また、同時に「職場環境」を「改善」するために「危機管理」の観点から「メンタルヘルスケア」を重視して「取り組む」事業所が増加している。また、「阪神淡路大震災」の語句も特別に目立っている。

2000年代には、1位に「看護師」続いて「心」「職場」「ストレス対策」「精神健康度」「職業性ストレス」が出ている。この背景には、この時期に看護師のメンタルヘルスが社会問題化したことに加えて、2000年3月、長時間労働と自殺の因果関係が最高裁で認定¹³⁾されたことにより、従業員の心身の健康管理を含めた「安全配慮義務」が、企業側により強く求められようになったこと¹⁴⁾が考えられる。さらに2002年に、厚生労働省は過重労働による健康障害の防止のための総合対策を通達している¹⁵⁾。このなかで事業者には健康診断の確実な実施及び産業医や保健師による面接指導を努力義務とした。加えて2006年には、対策の適切かつ有効な実施を推進するために労働者の心の健康の保持増進のための指針が策定されてい

る¹⁶⁾。従って、2000年代は従業員の健康づくり対策が実践されはじめた時期であり、メンタルヘルス対策の転換点とも位置づけられるかもしれない。

続く2010年代の特徴語には、「ストレスチェック制度」と「東日本大震災」が出現し、「レジリエンス」や「支援」が目される。労働者を取り巻く環境の劣悪化や経済のグローバル化、働き方改革の推進は労働環境をより複雑化している。これらの労働環境変化への適応能力としてレジリエンスが目されている。レジリエンスとは、脅威的な状態に晒されることで一時的に心理的不健康の状態に陥っても、それを乗り越え、精神的病理を示さず、よく適応している状態を指す概念を指している。

2018年に厚生労働省から発表された労働安全衛生調査の概況では、仕事や職業生活において、強いストレスを感じるという労働者の割合が58.3%まで及んでおり、増加傾向にある²³⁾。また、ストレスの原因として挙げている割合は、仕事の質・量、仕事の失敗・責任の発生、セクハラやパワハラを含む対人関係が多くなっている。この調査結果からも労働者は強いストレス状況にさらされる機会が多くなっており、これらストレスに適応、回復できる能力としてのレジリエンスが必要と判断されるようになったと考えられる。これからも労働者を取り巻く環境がより一層厳しくなると思われるため、レジリエンスは労働政策や人材育成、組織の最適化手段として位置付けられると予期される。

総括するとメンタルヘルス対策は、1980年代の課題の分析に始まり、実践するための方策策定・実施の時代を経て、近年は評価の段階にあると考えられる。以上のように、研究テーマは時期と共に変遷し、政策や社会的背景の影響を受けている。また、1990年代までは実態調査などの現状把握に関する研究、2000年代以降は具体的な支援に関する内容に研究が移行している。

テキストマイニングの手法を使った分析によって、日本におけるメンタルヘルス研究の概観を把握することができた。過去38年間にメンタルヘルスに関連する医療・福祉の現場や研究者がどのような診療やケア、研究を行ってきたのか、その変遷と特徴を可視化したことで、問題点が浮かび上がり、課題を共有でき改善のための対策を効果的に行えると考える。本研究の限界は、医学中央雑誌のデータベースを用いたため調査対象が国内出版の文献に限られ、同時期に出版された英語で書かれた国外文献が含まれていないことである。また、論文種類を論文に限定しなかったことで、質が担保されない研究が多く含まれた可能性がある。

謝辞：本研究は、平成29～令和元年度科学研究費補助金(若手研究B：課題番号17K17403)の助成を受けて実施した研究の一部である。

[COI開示] 本論文に関して開示すべきCOI状態はない

文 献

- 1) 厚生労働省：メンタルヘルス対策(心の健康確保対策)に関する施策の概要. 心の耳. <http://kokoro.mhlw.go.jp/guideline/guideline-mental-health/>. (参照 2019-10-10).
- 2) 政策統括官付参事官付賃金福祉統計室：平成 29 年労働安全衛生調査(実態調査)結果の概況. 厚生労働省. 2018-8-28. https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/h29-46-50_kekka-gaiyo02.pdf. (参照 2019-10-10).
- 3) 佐藤香織：労働者のメンタルヘルスと働き方改革. 日本健康教育学会誌 26 (3) : 283—290, 2018.
- 4) 齊藤朗宏：日本におけるテキストマイニングの応用. The Society for Economic Studies. The University of Kitakyushu Working Paper Series 2011 No.2011-12. http://www.kitakyu-u.ac.jp/economy/study/pdf/2011/2011_11.pdf. (参照 2019-9-15).
- 5) 美馬秀樹, 丹治 信, 増田勝也, 太田 晋：近代文献のデジタルアーカイブ化とテキストマイニング—岩波書店「思想」を題材に. 研究報告人文科学とコンピュータ 4 : 1—8, 2012.
- 6) Min HS, Kim CY: Exploratory study of publicness in healthcare sector through text network analysis. Health Policy and Management 26 (1): 51—62, 2016.
- 7) 医学中央雑誌刊行：医中誌 Web とは. 医中誌 Web. <http://www.jamas.or.jp/service/ichu/about.html>. (参照 2019-10-10).
- 8) 松田真美：「医中誌 Web」を利用した文献研究. 情報の科学と技術 67 (6) : 322—324, 2017.
- 9) 医学中央雑誌刊行：医中誌 DB 情報, キーワード, シソーラス用語. 医中誌 Web. <https://www.jamas.or.jp/databases/keyword.html>. (参照 2020-2-3).
- 10) 医学中央雑誌刊行：医中誌 DB 情報, 編集方針, 論文種類の定義. 医中誌 Web. <https://www.jamas.or.jp/database/policy2.html>. (参照 2020-2-3).
- 11) 小棹理子, 石田英弥：テキストマイニングのアンケート解析への応用への試み. 湘北紀要 30 : 83—95, 2009.
- 12) 堤 明純：事業場のメンタルヘルス対策の現状と将来. 産業医学レビュー 21 (4) : 271—291, 2009.
- 13) 藤本 茂：過労自殺と使用者の損害賠償責任—電通事件, 別冊ジュリスト 165 号労働判例百選. 第七版. 東京, 有斐閣, 2002, pp 142—143.
- 14) 寶珠山務：過重労働とその健康障害 いわゆる過労死問題の現状と今後の課題について. 産業衛生学雑誌 45 (5) : 187—193, 2003.
- 15) 厚生労働省：過重労働による健康障害の防止のための総合対策. 厚生労働省. 2006-3-17. <https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzenisei12/pdf/05b.pdf>. (参照 2019-10-10).
- 16) 厚生労働省：労働者の心の健康の保持増進のための指針. 厚生労働省. 2006-3-31. <https://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/03/dl/h0331-1c.pdf>. (参照 2019-10-10).

別刷請求先 〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
 鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻基幹看護学講座
 李 慧瑛

Reprint request:

Hyeyong Lee
 Faculty of Medicine, School of Health Science, Kagoshima University, 8-35-1, Sakuragaoka, Kagoshima, 890-8544, Japan

Research Trend of Mental Health in Japan: Relationship with Labor Policy by Date

Hyeyong Lee

Faculty of Medicine, School of Health Science, Kagoshima University

The aim of this study was to explore the research trend of mental health in Japan. By using text mining approach, the characteristic words by date were extracted and the relationship with the labor policy was considered. The data were the literatures listed in the web version of ICHUSHI, a Japanese medical database, between 1982 and end of February 2019. The subjects were articles retrieved using “mental health” and “stress” as keywords. We analyzed for trend of the words used for the title, the transition by decade and characteristic words in the text of literatures by the text mining technique. A total of 6,819 literatures were searched. The number of literatures related to mental health has been increasing over time, especially since around 2000. The higher ranked characteristic words by date were “workplace”, “health science”, “mind”, and “medical environment” in the 1980s; “mental health”, “preventive medicine study”, “Great Hanshin Awaji Earthquake”, and “mental health care” in the 1990s; “nurses”, “mind”, “workplace”, and “stress measures” in the 2000s; and “stress check system”, “Great East Japan Earthquake”, and “mental health policy” in the 2010s. The medium ranked characteristic words in the 2010s were “resilience”, “mental health support”, and “obligation”. Mental health policy had started with the analysis of issues in 1980s. It moved to the stage of planning for practice and implementation, and in recent years, it shifted to the study of specific support methods. Research trends are affected by labor policy. The countermeasure to diversified labor form since the 2000s and process of understanding the mental health as risk management in the enterprises are also reflected in the research content.

(JJOMT, 68: 348—355, 2020)

—Key words—

mental health, labor policy, text mining